

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	養護教諭の健康相談活動の力量形成に資する研修プログラムの開発に関する研究
------	--------------------------------------

研究代表者

氏名 荒川雅子	所属 養護教育講座	職名 講師
------------	--------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名
朝倉隆司	養護教育講座	教授
竹鼻ゆかり	養護教育講座	教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

< 研究の目的及び意義 >

本研究は、①学校種の違いに即して養護教諭が行う健康相談活動の具体的内容と、その評価と課題を明らかにすること。②今後の充実と改善に必要とされる研修内容・方法を明らかにすること、を目的とした。

本研究により、養護教諭の健康相談活動に関する力量形成に効果的な研修内容が明らかになれば、学校種の違いを考慮し実践に即した研修内容の構築が可能となり、今後の現職養護教諭に対する研修及び、養成における教育プログラムの開発に貢献できる。養護教諭の健康相談活動における力量形成に資する教育研修プログラムを開発することができれば、各校種の特性を考慮した健康相談活動の円滑な実施と校種間の有機的な連携につながり、子どもの発達課題や健康課題(例えば学校への不適応、不定愁訴等)の解決に積極的に貢献できる。

学校種の違いに即した健康相談活動の具体的内容及び評価を明らかにする前に、基礎研究として、養護教諭が行う養護活動全般の力量形成に至る実態を調査し、養護教諭の専門性力量獲得のプロセスを明らかにすることを目的とした。

< 研究方法及び内容 >

関東近辺に勤務する、経験年数20年以上の養護教諭を対象に、インタビュー調査を行った。調査は半構造化インタビュー形式で、内容は、①養護教諭の成長とはどのようなものと考えているか②自分自身が養護教諭になってから今までを振り返り、養護教諭として成長を実感した出来事及びその具体的事例。③養護教諭として成長した要因は何か。④どのような支援があれば、養護教諭の成長に寄与できると思うか。について自由に回答してもらった。

また、①対象者の年代、②経験年数、③養護教諭免許取得学校種別、④今まで勤務した全ての学校の概要についてをフェイスシートに記入してもらい、インタビューデータとあわせて資料とした。

インタビュー内容は録音し、録音データを文字データに変換し、分析を行う。分析方法は、M-GTA(グラウンテッドセオリー・アプローチ)の手法を用いた。M-GTAの分析手法は、次の3点から本研究の分析手法に適していると考えられる。①プロセスを明らかにするのに適した方法であること。②理論の定時が出来ること。③実践者が提示された理論を応用しながらさらに実践に生かしていけること。である。

調査期間は、2014年10月～2015年3月で、回答者は10名である。回答者の内訳は、経験年数21年～30年のもの4名、31年から40年のもの6名であり、年代は、40代3名、50代7名である。

また、勤務校の内訳は、小学校のみのもの5名、中学校のみのもの1名、高等学校のみのもの1名、複数の校種を経験したもの3名である。経験勤務校数は一人あたり4～8校で、平均5.9校である。公立・私立の内訳は、延べ校数のうち98%が公立学校である。

免許取得学校種は、教育系3名、学際系1名、短期大学2名、専門学校(養成所)3名、別科1名である。

現在はインタビュー調査で得られた音声データの文字データへの変換および、文字データの分析を行っているところである。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

分析結果は、2015.11.27～の日本学校保健学会（於：岡山コンベンションセンター）にて高騰発表の予定である。その後、日本健康相談活動学会誌に投稿予定である。